



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Who Benefits from Social Media? The Role of Social Media Functions and Personality Traits in Predicting Social Capital and Psychological Wellbeing [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	郭, 羽
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(国際広報メディア)
Dissertation Number	甲第12012号
Issue Date	2015-09-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/60090
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Yu_Guo_abstract.pdf, 論文内容の要旨



学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（国際広報メディア）

氏名：郭 羽

学位論文題名

Who Benefits from Social Media? The Role of Social Media Functions and Personality Traits in Predicting Social Capital and Psychological Wellbeing (誰がソーシャル・メディアの恩恵を被るのか？社会関係資本と精神衛生を規定するソーシャル・メディア機能と性格特性の役割)

近年、様々なアプローチでソーシャル・メディア使用による使用者への効果、態度変容を探究する研究が増加している。そのような中、本研究は人間関係と精神衛生への影響関係を考察する論考であるという点に特徴があり、既成の先行研究と一線を画している。

人間関係に関する研究においては、既にいくつかの先行研究がソーシャル・メディアにおける対人コミュニケーションや社会関係資本の研究に踏み込んでいる。しかしながら、未だに対人関係の程度、機能の細部に到る解明、使用者個人の性格による影響関係の解明、ソーシャル・メディアの使用「目的別＝機能別」影響関係の解明などに関しては、研究の蓄積が不足しているのが実状である。特に、先行研究の多くのデータが欧米諸国の大学生から取られているという実態もあり、欧米中心のサンプルとは異なる文化や社会を背景とした研究蓄積も十分ではない。このような先行研究の実状を考慮し、本研究においては、先行研究の蓄積が弱いソーシャル・メディア使用と社会心理的影響関係を探究する考察を行う。さらに、特に中国の一般ユーザに焦点を当て、学生サンプルに偏らないデータ収集を行っている点も注目に値する。

本研究は、全体として七章の構成となっている。ソーシャル・メディア使用が社会関係資本と精神衛生に与える影響を、社会心理学的手法とメディア・効果論的手法を用いて考察する。その際、利用者のソーシャル・メディア使用機能と性格特性（Big Five を用いている）を考慮し、分析を行っている。第一章においては、以上で述べられた研究上の特徴と背景がまとめられ、本研究の学術的位置付け、意義や独創性などがまとめられている。

本研究第二章においては、先行研究の検討が三つのアプローチにより行われている。第一は、ソーシャル・メディア研究の理論的基礎を形成するユーザ論、ユーザ満足論、ネットワーク紐帯論、メディア使用機能論等が検討されている。第二は、社会関係資本の理論的検討とともに、同理論のソーシャル・メディアへの応用研究

が検討されている。第三は、ソーシャル・メディア使用者の精神衛生効果研究の系譜が、概念検討ともに検討されている。

第三章は、本研究で用いられるソーシャル・メディア使用時における機能を検討するパイロット・スタディが行われている。一般的に、先行研究においてしばしば用いられる機能は、GIA (Goods-and-Information Acquisition) と SAR (Socio-Affective Regulation) という2機能が多くの。本パイロット・スタディは、先行研究で2機能が確認された欧米学生サンプルではなく、日本に留学中の中国人学生を対象に行われている。調査の結果、先行研究とは異なる二つの機能、SIF (Social and Informational Function) と ERF (Entertainment and Recreational Function) が見出された。本章においては、先行研究と異なるこの二つの機能を比較検討するとともに、本研究で用いられる2機能として、社会関係資本と精神衛生概念との直線的関係が検証されている。

第四章は、前章のパイロット・スタディを受け、本研究の研究目的及び仮説が検討されている。また、本研究の主要な検討項目となる「ソーシャル・メディア使用」、「社会関係資本」、「Big Five」、「精神衛生」等の因子の概念検討と測定方法も検討されている。

第五章では、本研究の方法論がまとめられている。中国全土から収集された1003サンプルのデモグラフィック傾向が検討された後、前章で述べられた各項目の測定・集計・分析が行われている。

第六章では、前章で収集されたデータの分析結果がまとめられている。まず、ソーシャル・メディア使用と社会関係資本や精神衛生の関係は直接的ではなく、メディア使用の機能が媒介していることが明らかになった。また、娯楽リクレーション利用機能 (ERF) が社会関係資本を制限しながらも満足度を向上させている点も確認された。社会関係資本に関しては、特に「橋渡し型」社会関係資本がメディア使用や満足度と関係していることも明らかになった。特に、使用者の性格特性が、媒介的にメディア使用と社会関係資本の形成に大きな役割を果たしていることも確認されている。

第七章では、第六章で得られた結果をもとに、特に、欧米との先行研究結果を踏まえながら、中国データ結果の特性を検討する考察が行われている。最も特徴的な点は、ソーシャル・メディア使用機能とその効果としての社会的・心理的帰結は欧米型先行研究とは大きく異なり、本章での議論が集中している箇所である。本研究の限界の議論とともに、今後の理論的及び方法論的貢献が期待される部分である。これらの相違点が、今後のソーシャル・メディア研究及びネット上のコミュニケーション研究において活用されることが期待されている。